

<議事録>

令和3年度第3回  
我孫子市いじめ防止対策委員会

日 時 令和4年2月17日（木曜日）  
午後3時00分～午後4時30分

場 所 我孫子市教育委員会 大会議室

## 令和3年度 第3回いじめ防止対策委員会

令和4年 2月17日(木)

我孫子市教育委員会大会議室

15:00～

### 1. 開会 (齊藤)

- ・本日の委員会はオンラインでの実施となります。
- ・会議の公開について (齊藤)  
(オンラインということで傍聴は行いません)

### 2. いじめ防止対策に関する報告及び協議

<丸委員長> : 今回は、第2回はいじめアンケートの結果やQ-U検査の結果を中心に進めます。

コロナ感染がまだ多数続いている中、本市児童生徒の1月の欠席状態ですが、小学校286名、中学校77名、合計363名。そのうち陽性者は小学校85名、中学校23名、合計108名となっております。1月7日現在では小中合わせて84名でしたのでかなり増加しています。2月3日に最大560名の欠席があり、小学校の減少が鈍いと感じています。この間のコロナ関連のいじめの報告はなく、学校での指導や家庭での見守りをありがたく思っています。

各家庭の中で、感染防止のための取り組みや学校の中で感染者が出たときも、いち早く対策を取り、市長部局との協力体制をとるなど、対応しました。これからも関係機関などと連携を続けていきたいと考えています。では本日も多くのご意見をお願いします。

報告項目として、

- (1) 第2回いじめアンケートの集計結果及び考察について
- (2) 第2回いじめアンケート調査後の取組状況について
- (3) 第2回Q-U検査の結果について

以上を報告させていただいて、その後ご意見等をお願いします。

#### (1) 【第2回いじめアンケートの集計結果及び考察について】

<齊藤>

##### ① 【認知件数について】

まず、いじめの認知件数についてです。認知件数は、小学校406件(今年度6月比-88件)、中学校22件(今年度6月比-18件)で、認知率にすると小学校で約7%(今年度6月比-2.3%)、中学校で約0.8%(今年度6月比-0.6%)となっています。児童生徒の男女比率は、小学校では、男子56.2%、女子43.8%、中学校では、男子72.7%、女子27.3%です。第2回目は、6月の第1回目と比べて認知件数は全体的に減少する傾向の中、微増ですが小学2年の男子と3年の女子、中学1年男子が増えました。

##### ② 【集計結果について】

集計結果につきましては、事前にお渡しした資料をご覧ください。

### ③【その他の記述について】

回答内容については、おおむね1回目と大きな変化はありませんでしたが、13ページの考察にも記載しましたが、「問3：どんないじめか」の質問で、第1回に比べて増えた内容として、「話に割り込まれる」、「話していると友達を取られる」、「一緒に帰ってくれないなど」仲間関係に関わる内容が挙がっています。そして、1回目にはなかった、小中ともに、身体的接触や性的な内容の記載が気になります。

また、オンラインゲームやLINEでのトラブルの記載は今回も小中どちらも記述がありました。「問6：誰に相談したか」の質問について、「誰にも相談していない」が依然として多く、中学校では6月の調査に比べて増加しています。

### ④【インターネットや携帯電話についての調査について】

問14「自分のスマートフォンや携帯電話を持っていますか」について、小学校は57%（今年度6月比+3%増）、中学校は87%（今年度6月比+2%増）と、増加しました。前回のいじめ防止対策委員会でも話題になった、使用時間については、「4時間以上」の割合が、第1回（6月）と比べて、小・中ともに3%ずつ上がっています。資料にはありませんが、これらの項目については、令和2年度の増加幅が大きく、理由として、コロナ禍でのステイホーム、休校や部活動中止など生活様式が変わったことの影響が考えられます。

### ⑤【調査後の考察について】

最後に調査結果の考察です。

今回のいじめの認知件数は、コロナ禍前の通常の学校生活を送っていた頃と、数値はほぼ同様の結果となりました。

小学校、中学校どちらも、6月に比べていじめの認知件数が減少したのは、新しい生活様式への順応や、学級を含めて学校生活全般で人間関係・友人関係が構築されたためと思われます。今年度も行事などに制限はあったものの、集団生活や共有体験を積み重ね、少しずつ互いを理解し始めてきたと推測できます。

これと関連して、小学校の「今誰かをいじめていますか」の質問に「はい」と回答した理由の「気晴らし」が、6月に比べて減少しました。長引くコロナ禍で、前回の調査ではストレスを溜めている子どもたちが多かったこと、一方で11月はコロナが落ち着いた時期で、行動制限が緩和されたことなどが理由として考えられます。

いじめられている期間について、依然として「1か月以上」の回答の割合が多いことが引き続き課題であると思います。これを念頭に置いて指導やその後の追跡調査を十分に行って行く必要があります。

中学校では、相談相手が親や教員、友達など6月と比べて増えている一方で、「誰にも相談していない」と、約半数の生徒が回答、増加しました。相談できる生徒と、そうでない生徒が二極化しています。長く続いてきたコロナの影響で、仲間とかかわる機会が少なく、これまでと比べて相談できる友達づくりができにくい状況が生まれていることが考えられます。これらの対策の一つとして、教員が

児童生徒と友好的関係を築き、日ごろから相談しやすい関係をつくること、身近な大人に相談することなどを校長会や教務主任研修会などで周知していきます。

オンラインゲームや SNS 上でのいじめは、依然として小中どちらでも起きています。スマートフォン全体の所持率や低学年からの所持率は、年々上昇傾向です。引き続き、情報モラル教育などを通しての指導や、大人たちがこれらの世界を知ることが重要です。

いじめの防止対策は、年に2回のアンケートだけに頼るのではなく、注意深く子どもたちの様子や変化を見ていくこと、また、いじめを周囲に訴えることは恥ずかしくないこと、周りが許さない雰囲気を作ることを行い、各校の「学校いじめ防止基本方針」に示された校内体制を改めて確認し、いじめ事案が浮上した際には、組織で迅速に動き、児童生徒、保護者が安心できる環境づくりをさらに推進していきます。

## **(2)【第2回いじめアンケート調査後の取組状況について】**

次に、第2回いじめについてのアンケートでの調査後の取組状況についてです。

どの学校も、1学期から引き続き授業や学級で、相手の立場で物事を考えることの大切さや、仲間との関わり方を指導したり、考えさせたりしています。教育相談・個人面談では、児童生徒の実態を踏まえて、適切な対応が図られるよう、担任だけでなくスクールカウンセラーや保護者との連携を図って取組み、教職員間では、共通理解を図り、組織で対応しています。

[丸 議長]

ここまでの事務局の報告について、何かご意見やご質問はありますか。

## **(3)【未解消報告のケースの状況について】**

「次に、第2回いじめについてのアンケートでの未解消報告のケースの状況について、佐藤より報告いたします。

…小学6年生女子、小学1年生男子、小学2年生男子の事例と中学2年生女子の事例を報告…

## **(4)【第2回 Q-U 検査のいじめ対策項目の比較について】**

Q-U 検査のいじめ対策項目の比較について、報告いたします。

始めに、前回、「ネット上で嫌なことをされることがある」の項目について、地域ごとの特徴や偏りがわかるのかという質問がありました。このことについてですが、集計元では「そのような集計をしておらず、今のところ、また今後もその予定はない」ということでした。

①前回挙げた「ネット上で嫌なことをされることがある」についてですが、小学4年生は前回と同じく全国平均同等で、5年生、6年生も同様に全国平均と同等でした。スマートフォンを使い始め、興味本位、面白半分ネットにつなげ、例えば『馬鹿じゃないの』という文章を書いた方はすごく軽い気持ちなのに、受け取る側は重く受け止めてしまう』ような例があります。学校では、正しい使い方や事例を挙げての指導を進めていますが、中学生は、「全国より大きく望ましい方向にあ

る」という結果が出ており、指導の効果が表れていると考えています。

②中学2年生では「学校に行きたくないときがある」が増加傾向で、聞き取りでは「いじめがあるから」だけでなく、「何となく…」「つまらないから…」という理由の生徒が何名かいます。

質問項目「無視される」「バカにされる」「浮いている」などが、〈1：全くそう思わない〉なのに「学校に行きたくない…」だけが〈5：とてもそう思う〉と答えています。

「調査時に沈んでいた」や「間違えて回答した」生徒もいますが、家庭内が不安定やコロナ感染の影響なども考えられ、その原因を聞き取れるように生徒と教師の関係づくりを日常生活の中で深めていく必要があります。

### 3. 意見交換

<丸 議長>：それでは、ただ今、事務局より報告のありました件や全体を通して、ご意見やご質問をいただきたいと思えます。コロナ感染が始まって約2年経過していますが、児童生徒の友人関係について影響があるのではと考えますが、学校現場からご意見を頂ければと思えます。鈴木委員、お願いします。

<鈴木委員>：出だしには臨時休校があり、大きな衝撃があったと思えます。再開して、昇降口で子どもたちを見ていると、お互いに接することを明らかに避けている様子がありました。その当時と比較すると、現状では、新しい生活様式が広まる中で、学校ではその生活様式を守っていくことを指導しましたし、子どもたちはこれを基盤として生活し、友人関係も接触が増えても恐怖心が減少してきました。学校では本日まで、コロナに関するいじめはありませんでした。子どもたちは子どもたちなりに守る方法を身に付けてきていると思えます。

<戸塚委員>：今年度着任したので、昨年度との比較はできませんが、子どもたちは新しい生活様式が身につけており、人間関係作りは意外とできているのではと思えます。本校もコロナによるいじめは心配していません。ただ、先ほど話が出ましたが「なんとなく学校に行きたくない」という生徒がおり、不登校になるのでは心配しています。担任や養護教諭などが話を聞きますが、特にはっきりとした理由がない生徒が多いです。人間関係が原因とはっきりしていれば、本人や相手に話を聞くことで対応できるのですが。教育委員会の「なんとなく…」という生徒が気になる報告に同じ思いです。

<丸 議長>：子どもたちは新しい生活様式を、「しっかり守っているな」「頑張っているな」というのが私の感想です。先生方も同様に頑張っていると思えます。

<久米委員>：ある学校に伺いましたが、子どもたちが元気に挨拶しているのを見て、健康的な生活に戻ってきているなど思いました。身体接触ですが、身体を触ったり、股間を触ったりキスを迫ってくるなど、人との接触が恋しくなりこういう行動に出ているのではないのでしょうか。

「誰にも相談しない子」が増えているということですが、健康的な生活に戻ってきて、微妙な変化が出ているのではないのでしょうか。

いじめがいけない事はわかっているが、どうやってグッドタイミングで「ノー」と

言えばいいのかわからない。自分を大切にすることとはどういうことなのか。相手

を大切にすることなんだというような伝え方に変え、子どもたちが自分のこととしてわかるような伝え方が大切です。スマートフォンも同じで、使いすぎると何がどうなるのか具体的に話し、自分の生活を守ることにつながるということを、自分のこととしてわかるような伝え方が大切です。我孫子市が取り組んできた地道な今の活動を続けて欲しいです。

**<佐藤委員>**：コロナ騒動でないときには、頻繁にじゃれあったり、接触やスキンシップが図られたりすることが、学校生活の風景として当たり前になりました。今は距離を取らなくてはいけない中で一方はスキンシップを望み、他方ではスキンシップを望んでおらず、コロナの感染の中で気持ちが繊細になっています。いじめも同じで、受ける側が嫌な思いだといじめになってしまいます。今、子どもが我慢を強いられる状態です。それぞれの価値観の中で、子どもが嫌な思いをしていると感じると、保護者を通してのクレームがあり、改善を望むことになります。今は我慢しなくてはならない時なので、スキンシップでない行動を通してお互いの欲求を解消していく必要があります。

**<金児委員>**：校長先生と子どもたちの話をしたのですが、小さいいざこざは集団生活の中では必ずあるという話がありました。あるトラブルがあり、しばらく見守っていたが、子どもたちの中でやった方は反省しているなど捉えて、周りが、「反省しているのだから大丈夫だよ…」という形で解決したという話がありました。子どもたちは自ら解決できる力があるが、教師はどこから介入していいのかが難しいと言っていました。急に大人が「やめなさい」と入っていってしまうと「いじめられた方・いじめた方」とカテゴリーができてしまうので、ある程度見守ることも大切だと話され、現場の先生たちはそういう見極めが大変なんですという話でした。子どもたちの気持ちや家庭でのちょっとした変化というのを、保護者はクレームというのではなく、学校に相談という形で話を持っていけばいいと思います。子どもたちの解決する力をつぶしてはいけないという校長先生の気持ちがよくわかります。家庭では自分の子どもから聞いた話だけになってしまうので、まずは現状確認が保護者として必要ではないかと思います。

**<丸 議長>**：担任の先生がきちんと校長先生に報告して組織的な動きをしているのだと思います。その辺のところも保護者にきちんと説明することが大切だと思います。

**<小山委員>**：Q-U 検査の「学校に行きたくない」について、「特に理由がない」というのが印象的で、子どもはアウトプットする力が未熟なので、「何故？」を分析するのは難しいと思いますし、理路整然と説明するのは難しい。人と関わる経験を積むことで、相手の気持ちを汲みとったり、思いやったりすることは簡単なことでなく、やはり大変難しいことだと感じました。我が子は転校が多かったのですが、過去の話ですが今思うと「いじめ」だったのではということがあります。どこまで「ノー」と言えばいいのかわからない。ちょっとからかわれたときに、「嫌だと言ったらもっと大きなことになってしまうのでは。」「嫌われてしまうのでは。」と断り方がわからない中で、段々エスカレートしていったことがありました。親として気が付きませんでした。今中学生になって、「当時、断り方がわからなかった。なんでも受け入れてしまったことが、いじめを増長させてしまったんだな。」と最近になってそれを分析でき消化して、私に話してくれたのですが、子どもた

ちにとって他の人への相談は難易度が高いと思います。だからこそ周りの大人が上手に介入することが必要だと思います。そういう過程を経て、健全に成長して欲しいなと思います。

<丸 議長>：子どものSOSにいち早く気が付くというのは、言葉でいうのは簡単ですがなかなか難しいと思っています。相談しやすい雰囲気というのは学校の中で必要ですし、両親には話しやすいというのも必要だと思います。

<村田委員>：コロナの問題が2年間続いています。学力の低下はどうでしょうか。また、学習が進んでいないためのストレスとか対人トラブルなどは見られるのでしょうか。

<丸 議長>：学力の低下については、全国学力・学習状況調査などの結果では、そういうことはないといえます。ただコロナ禍でグループ学習が出来ていないので、周囲と意見交換するとか話し合う活動が出来ていないというのは確かです。

<丸 議長>：最後になりますが、皆様におかれましては、大変お忙しい中、我孫子市のいじめ防止のために、貴重なご意見およびご助言を頂きましたことに、深くお礼を申し上げます。委員の任期は2年間で、令和5年3月31日までとなっております。来年度以降につきましても、引き続きご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

#### 4. 諸連絡 (齊藤)

先ほど委員長からもありましたが、来年度も引き続きよろしくお願いいたします。なお、令和4年度の第1回は、6月10日(金)を予定しております。

#### 5. 閉会 (齊藤)

以上をもちまして、令和3年度第3回我孫子市いじめ防止対策委員会を終わります。ありがとうございました。